

Catch the eye 2017年3月

- 2017/3/1 (水) 天職 大阪は今ところ晴れている。気温は平年並み。夜には南からの空気が入り、明日にかけて雨の予報。梅は満開、そろそろ桜が気になる3月。
- 『みんな悩んで大きくなった』とよく言う。悩んでいる最中には、「他人事だと思って…」とモヤモヤがかえって膨らむかもしれない。頭ではわかっているけど、気持ちに余裕がない。
- それでも自分から動いて相談にでも出かけようという気になるのは、悩みから抜ける大きなきっかけ。潜在する力が立ち上がり始めた証拠だ。そういう人たちを目の当たりに、自分の役割を再認識する。
- <一億総起業家時代>と言ってからも10年、会社に所属してもいなくても、自分の業を自覚して、定めて、究める。人生の大先輩から贈られた額に『究めればそこが天職』。これをあなたへ。
- 2017/3/3 (金) 閉ざさない 暖かくなったり、寒かったり。寒くても肌の表面だけ冷たい風、さすがに冬のようなことはない。首元にもウールではなくシルクのスカーフ、見た目に春を演出。5日は啓蟄。
- 過日、「フェイクニュース」を特集したNHKのニュースサイトを読んで、SNSの負の側面を再認識した。「エコーチャンバー」(中にいる人の声ばかり反響する部屋、「フィルターバブル」)(情報の殻にこもる)。最初はほんの遊び心で始めた偽ニュースの発信、それを信じる人々たちを見て、発信に興じるようになった男性。彼に罪悪感はない風。
- つい先日同業の人から聞いた話に少々びっくり。研修などでグループディスカッションをしたとして、各グループの結果発表した後に、他のグループへの意見などを出し合うグループ間ディスカッションを設定しても、ほとんど誰も声をあげる人はいないとのこと。講師のファシリテーションにかかっているとは思うけど、言い切っていたのが印象的。
- オープンな場で異なる意見を閉ざす。閉じた場でオープンに同じ意見に浸る。人間はよくもわるくも慣れる生きもの。精神を閉ざしてはいずれ心が狭まる。そうなっては些細な出来事にもあつぷあつぷになる。そうならない柔軟で大らかさな心。そのために最適な読書。本業以外の多様な知にふれ、精神を閉ざさない努力をお互いに。
- 2017/3/8 (水) 上質な憩いの場 昨日今日とまた寒い。季節の変わり目、体はちゃんと対応して、よく眠る。目覚ましより1時間ほどすぎて目が覚めた。あららら、と思ったけど、体がバランスをとっている証拠と意に介さず。『春眠暁を覚えず』にはまだ早いかもしれないけど。
- 一昨日、人を天満に案内した。天満のディープな飲食街に開眼して日も浅い人間の案内だから、あらかじめネットで調べて、立ち呑み処を2, 3チェックした。こういうところはなが居るものではないので、ハシゴする前提で。

一軒目は小さな店だった。スタンディングのテーブルが空いていた。カウンターには女性の「お一人様」も。店員がきびきびと動く。注文すると、小気味よくモノが出てくる。グラスが空になりそうなら、すぐに声がかかる。最近は緩慢な対応が多いから気持ちがいい。

二軒目は広い店だった。中央に大きな楕円のカウンター、壁にそってスタンディングのテーブルが並ぶ。その一つが空いていた。ベテランらしき女性店員がカウンターに向かって横に並んで立つように勧めた。おかげで、大きな楕円のカウンターをとりまく客たちの様子が見えた。

一人で来ている人、仲間と一緒にいる人、後に入ってきて反対側のカウンターに知り合いを見つけて互いに遠くから手をあげて挨拶しあっている人。楕円の中には店員たちが4、5名、客たちのオーダーに応じている。壁側から全体が見えて、まるで映画のワンシーン。

みな、しあわせそう。赤らんだ顔が笑い、何かを一生懸命しゃべり、ここばかりエアポケット。見ているこちらも、何となくしあわせな気分。ベテラン店員の女性がこれまた愛想よく、小気味よく、大人な力をそなえて、ここは上質な憩いの場と再認識した立ち呑み文化。

2017/3/10 自分の中にある
(金)

今日も寒い。昨年買ったブーツ、この冬一回しか履いていない。今日ぐらいが履き納めと足をいれた。でも、”やめときゃよかった…”。昨年からまだ数回、皮がなじまず、足取り重い。靴も服も早く軽くしたい。

今日は速報が多い。韓国大統領罷免、森友学園認可取り下げ、南スーダン自衛隊撤収。年初からずっと世界が揺れ動いている感じ、否、昨年から。

新聞には震災から6年の記事が重なる。但し、除染の入札の記事は無いとか。ほとんどの入札で大手ゼネコン各1社のみの応札だった現状。調査して報じたのはNHK。スポンサーありなしの差は小さくない。

久しぶりにたのしく読んでいるのは、3月の『私の履歴書』。よき時代のアメリカ人という印象。見て感じたままに買った作品が一つの系統になっていたという話が興味深い。

批評家の若松英輔さんが言った『自分の出会った言葉は外灯。魂の言葉は自分の中にある』と同じ。プライスさんの精神性が選ばせた。同じものを見ても人それぞれのスイッチを持っているから、文化の花が咲く。



2017/3/16
(木)

親交温める

気がつけば沈丁花が満開になっていた。『少女の前後はあっても、季節は必ずめぐる、花が咲く』。永平寺の高僧が語ると深みと重みがある。櫻木は同じでも、今年もまもなく新しい花が咲く。

季節の変わり目、昨日はやけに寒かった。風も強かった。その中、一日外出。午前「女性チャレンジ応援拠点」のミニサロンに参加し、終ってからは四天王寺近くの「美味しい暮らしの輪・話・和ーエコスペースゆう」を初めて訪ね、次に天王寺美術館でやっている日展で出展者の作品などを観てまわり、最後は拠点へ戻って夜の担当。ついであついで、新旧の人との親交を温めた。

動くとき必ず何か新しい出会いがある、大小の発見がある。人、モノ、場面、光景、風景、等々。

『前から思っていたんですけど、共同で使えるアトリエがあれば、いいなって』。道具を置いておけて、好きな時に描ける場所。教室に通うと先生のカラーに影響される。家では描くスペースがない。

なるほど、アトリエ版のコミュニティースペース、コワーキングスペース。すでにどこかにありそうな気もするが、絵画教室で十分習いおえた熟年層のアマ画家たちの場はないかもしれない。大事にしてきた絵の道具を存分に使いきりたいというお話が印象的だった。絵を描いてきた過去の時間に人生ストーリーがあるよう。

ミニサロンの後の「エコスペースゆう」では2時間もなが居ることになった。主宰者の方とはこれまで4、5回会っている。でもじっくりお話しする機会はなかった。17年続けてきただけあって、よく勉強されているなあと思った。話しをすればわかるものだ。そうこうしている時に訪ねてき新進の女性起業家の思いと実行力。この出会いは一つの偶然。

美術館から拠点へ戻り、夜の担当に入ってもまもなく、これまた何度か会っていても、ゆっくり話したことはない訪問者あり。

『あー、よかった、話に通じて。主婦友だちにこんな話しても、？となるから…』。独立系のメディアの名前が出てきて、「へえー、そうですか、そこをチェックしているとは」と応答してのこと。それからは話がどんどんはずみ、話せば話すほど、知性の在り処が感じられた。あらためて、人って、話してみないとわからないと感じた。

人それぞれの知のいとなみ、思い、実践。それにふれた一日だった。

2017/3/21 音楽を愛する人
(火)

大阪は雨。午後一番、けっこう強く降っている。気温は低めで花粉は小休止。一昨日昨日と春めいたお天気、花粉はかなり飛んでいたようで、ひよっとしてかかったかしらと思ひ。今日の雨は大歓迎。

春分もすぎ、4月もまもなく。この間に気になっていた用事をあれやこれやと済ませる。先週は今年の「計」に応じて、このホームページを再編集した。その前の週末はレコードを処分した。むかしよく聴いたアナログLP。

直接もって行って引き取ってもらう。事前にネット検索した心齋橋の中古レコード店。アナログばかりを扱うお店は小さなビルの2階。レコードも50枚ほどになるとけっこう重い。ビジネスのキャリーバッグからはみ出して、ここまで引っ張ってきた。これを一気に2階へ運ぶことは無理。分けて、上り、開店時間そうそうに店内に入った。

まだお客はいなかった。店主かスタッフか、若い男性がカウンターにいた。ちょっと意外な感じがした。こだわりのお店、無意識にクセのありそうな人をイメージしていたのだった。

理系の真面目な大学生という彼に安心して、「あの、レコードを買い取りをお願いしたいと思って…」。あ、はい、と言ってカウンターの外に出てきてくれた。2つに分けた袋から一枚ずつ出して、見てくれた。

『すいません、うちでは、この2枚だけですわね…』。あ、そうですか…と返事しつつ、別なところでは引き取ってくれるのかと思い、尋ねてみた。心齋橋に他にもいっぱいあるらしい。その中で行ってみるとすれば？

2店教えてくれた。帰りの方向に近いお店に行くことをにして、場所を教えてもらった。じゃ、行ってみますとレコードを元にもどしかけたら、彼は選んだ2枚も一緒に元に戻そうとする。

それは…。「あ、たぶんこの2枚がないと他のものも引き取ってもらえないと思いますよ、うちがいイとこどりしていんなら、なんです、そんなことはやはりダメですからね」。

初めてこういうサービスを利用しているのは一目瞭然。それでもこの世界の仁義をちゃんと通した若い彼。教えてもらって行ったお店は年季の入った店内、そして店主夫妻。

ここでは一枚一枚、丁寧に中身を確認。30分ほどかかったと思う。さきほどの彼も、この夫妻も、なんとなく人柄のよさを感じた。音楽を愛する心がそうさせるのだろうかと思った。

2017/3/24
(金)

読書

確認の結果、三分の1は廃棄レベル。その他はまとめて3、600円。たぶんあの2枚があったからこの金額になった。廃棄のものも含め、ようやく処分した身軽感と、いい人たちに会ったほっこり感で、年度末の仕事を一つ片づけた感もひとしおな一日だった。

今日はまた寒い。昼前に外へ出たら、少し身震いした。しっかり厚手のコートを着ている人もいる。別な人はひと足先に春本番、少々やせ我慢か。大阪の桜開花は来週の予想。3月も残り一週間。

まさか読書談義ができるとは思わなかった。先日仕事で会った女性二人。本を読まない人が増えたと言われて久しい。本の話で盛り上がるということも最近ではほとんどない。

一人から蕪村、夏目漱石、芥川龍之介の名が出てきた。もう一人からは村上春樹、嫌煙していたけど、読んだらハマった、と。彼女が堀田善衛を知っていたのには驚いた。

「読書の習慣をつけてくれて、両親に感謝しています」。今でもよく読むそう。子どもの頃の日常的な環境、それは大人になって効いてくる。だから「森友学園」問題でもその点が特に気になった。

丈夫な心も考える力も長い時間をかけて醸成されるもの。その素になる一つが読書。昨年から今年に入って、読書の大事さを痛感すること度々。今年のテーマを「精神の糧を豊かに」としたほど。

以来いろいろな機会に、読書しましょう、書くようにしましょう、と言っている。ネットや人の知に頼るばかりで、自分で努力している人が少なくなったようでもあるし。今さらながら、読書に開眼する今日この頃。

